

## 平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	環境情報学特別演習 I (Environmental Information Engineering Seminar I) 【濱永研究室】		授業コード	M001111
担当教員名	濱永 康仁		科目ナンバリングコード	R30401
配当学年	1	開講期	通年	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	社会に貢献できる人材となるために知識や技術だけではなく、人間性も含めた社会性を身に着けることを特別研究を通した目的とする。			
受講心得	室内だけではなく、時には外に出て情報を収集することもあるため、どのような課題が来ても対応できるように心身の準備をすることを心得てもらいたい。			
教科書	随時資料を作成する。			
参考文献及び指定図書	修士論文に関わる文献。			
関連科目	環境特別演習 II			

授業の目的	修士論文を作成するために必要な事柄を学び、身に着けることを目的とする。
授業の概要	修士論文作成のためには、社会の問題に気づき、それを解決する方法を検討しなければならない。そのために、どのような実験や研究が必要かを検討する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：授業について 授業の目的, 内容, 進め方を説明する。	
第2週：実験テーマについて 本研究分野の現状について説明する。	
第3週：文献調査 同分野の研究論文の調査結果と内容を報告する。	
第4週：文献調査 同分野の研究論文の調査結果と内容を報告する。	
第5週：文献調査 同分野の研究論文の調査結果と内容を報告する。	
第6週：文献調査 同分野の研究論文の調査結果と内容を報告する。	
第7週：文献調査 同分野の研究論文の調査結果と内容を報告する。	
第8週：文献調査 同分野の研究論文の調査結果と内容を報告する。	
第9週：文献調査 同分野の研究論文の調査結果と内容を報告する。	
第10週：実験 実験の準備状況や問題点について議論する。	

第11週：実験 実験の準備状況や問題点について議論する。		
第12週：実験 実験の準備状況や問題点について議論する。		
第13週：実験 実験の準備状況や問題点について議論する。		
第14週：予備実験 どのような予備実験が必要か検討する。		
第15週：予備実験 どのような予備実験が必要か検討する。		
第16週：総括 第1～15週のまとめを行う。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目		
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	宿題、授業における発表の準備を毎回欠かすことなくできる。 積極的に発言できる。
【知識・理解】	取り組む研究の背景、位置づけ、目的を理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	分かりやすい資料作成や発表ができる。
【思考・判断・創造】	目的を達成するような実験を実現できる。 必要に応じて研究内容を微調整できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		10点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	10点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点	10点	

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	発表資料の作成及び発表自体について分かりやすさや、自分の考えを明確に述べることができるか、質問に明確に回答できるか、を評価する。